

令和5年度第2回坂井市子ども・子育て会議 議事概要

日時	令和5年10月4日（水） 午後7時～
場所	坂井健康センター1階ホール
出席者	委員：石川会長、武田副会長、伊藤委員、久保田委員、西村委員、岡崎委員、 中嶋委員、伊東委員、橋本委員、小林委員、片山委員、勇上委員、盛岡委員 事務局：森瀬部長、栗原課長、佐藤課長、浦課長、結城参事、 河原参事、細川課長補佐、矢尾参事、井上課長補佐
欠席者	なし
議題	(1) 第3期坂井市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査について（継続協議）
その他	今後の会議日程
資料	(当日配布) 坂井市子ども・子育て会議委員名簿 資料1-1 ニーズ調査項目一覧表 素案「(1) 就学前児童の保護者用」 資料1-2 ニーズ調査項目一覧表 素案「(2) 小学生の保護者用」 参考 第2期坂井市子ども・子育て支援事業計画 抜粋

1. 開 会

2. 会長あいさつ

<出席人数等の報告>

【会長】

出席委員数の確認。13名全員出席。過半数以上の出席のため会議を開催。傍聴人なし。

3. 議題

(1) 第3期坂井市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査について（継続協議）

<資料1-1、資料1-2、参考>

【事務局より説明】

【会長】

ニーズ調査についての概要のご説明をいただいた。大きく分けて二つ調査があり、一つは就学前児童の保護者対象、もう一つが小学生の保護者対象である。

ただ今の説明について、皆様からご質問・ご意見をいただきたい。調査のやり方という方法の着眼点と、それから質問項目、内容に関わるご意見等もあるかなと思う。

【委員】

質問項目が30問程度ということで、かなりボリュームがあるのかなと思う。前は質問紙で調査されたようだが、今回はWeb調査などを採用する方向があるのか。あと、回答数を上げるための工夫は何かあるのか、お伺いしたい。

【事務局】

Web調査については第1回会議の時にもご意見をいただいたが、今後、調査業務を行う業者を決める予定であるので、その業者と相談し、できる方向に向かって考えていきたい。

また、回答数については、単に調査件数を増やすことも考えられるが、配布するにも集計するにも逆に手間暇がかかることになる。件数が増えれば、集計結果は密度の濃いものにはなると思うが、工夫できるかももう少し検討したい。

【委員】

前回も私、Webのことはお話した。利点として、得意な人にとっては結構、簡単だということである。両方併用できるような形であれば、Webのほうで回答していただけるのではないかな。それで、回答する方の数も増えていくのかなと思う。

それともう一つ。就学前児童用と小学生用に共通するが、最後のページ、新規追加の「家庭でのICT機器の利用状況について」のところで、質問内容が「専用の」と限定している。就学前のお子さんのことはよく分からないが、あまり「専用の」ものは持っていないのではないかな。

小学生くらいになると多少持っている子は出てくるが、多くの子は、親のスマホとか借りて、やり取りしているようだ。そういう子たちの状況というのは、この質問内容だと拾えないことになる。

この計画の中で、そうしたICT機器の利用についても大人と一緒に正しく使ってもらうなどとするのであれば、そういったところも広く吸い上げられるといいのかなと思う。何か、「専用の」というところに限定された理由はあるのかな。

【事務局】

委員ご意見のとおりだと感じた。質問の内容を、分けて表現ができないか検討する。

【委員】

就学前児童用の7ページ、問21「お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか」だが、土曜日は基本、保育園、開いているはずなので、「土曜日」を入れず、「日曜日・祝日」としていただいたほうがよいと思う。

また、小学生用の6ページ、問17「子どもの健全育成や非行防止のために、どのようなことに力をいれるべきか」だが、選択肢の⑨は「今のままでもよい」となっている。この「も」では、意味が曖昧になってしまうので省いたほうがよいと思う。

もう一つ、それぞれの最後のページ、新規追加の「家庭でのICT機器の利用状況について」の枝間の2番だが、選択肢の④「インターネット上で個人が繋がれるSNSサービス」のカッコの中が「Twitter」とある。今、しきりに「X (Twitter)」と言われているので、直していただけたらと思う。

【事務局】

委員ご指摘のとおりである。3カ所の質問内容について、それぞれ直していく。

【委員】

就学前児童用も小学生用も共通することだが、今の「家庭でのICT機器の利用状況について」のところ、例えば、我が家では通信講座をタブレットで学習するようにしている。そういうものは選択肢の③「文書作成などの学習」に当てはまるのか。なければ、そこに追加してもいいのではないかと感じた。

【事務局】

資料作成の段階では想定していなかった。委員からご意見をいただいたので、選択肢について検討させていただきたい。

【委員】

就学前児童用の13ページ、新規追加の「国のこども未来戦略方針のうち、こども誰でも通園制度（仮称）について」のところだが、園の先生方は、この制度に関心を寄せていると思う。

今現在、幼児教育や保育を受けている方は、この制度を利用できないと思うので、園に通っていない方に限って答えていただきたいということになると、正確な情報は得にくいのではないかと。質問項目については、抽出の対象を絞るとか、注意が必要なのかなと思う。

【会長】

私もそこは、後で質問しようと思っていたところで、同感である。

【事務局】

国のほうでは本年度、全国的に試行をし、来年度から本格的に進めていきたいと考えているようである。まずは、国の情報をお知らせしたほうがよいかと思い、とりあえず質問項目としてあげてみたが、坂井市として実施しようとする、きちんとした体制を作らなければならないし、いきなりの実施で市民が混乱することも十分考えられる。今後も国の動向を注視していく必要があるため、この質問に関しては慎重に対応したい。

【会長】

これについては、本当は別建てで調査できると、単独でできるといいのだけだ。

【事務局】

6月に策定された、こども未来戦略とか加速化プランの中身が、どのような形でこういったニーズ調査に反映されるかというのは、事務局として、現在、国からの情報を待っているという状況である。

そのような中で、こども誰でも通園制度（仮称）については、仮に、このような形で調査してみてもどうかという意思表示をさせていただいたものである。

加速化プランには、ほかにも色々なメニューがあり、そういったことが新たにニーズ調査としてどのように盛り込まれていくか、注視していかなければいけないと思っている。

【委員】

就学前児童用の7ページ、問18から問20までの「お子さんの地域の子育て支援事業の利用

状況等について」だが、この回答を得られるのは、だいたい0歳児から2歳児までのお子さんをお持ちの方だと思う。

保育園に入られていたら、なかなか、こういった子育て支援センターを利用されることは少ないと思う。対象者が限定されるので、調査は個別でされたほうがいいのではないかと感じた。

【会長】

私から二つ、三つお願いしたい。まず、質問の中で仮定の話がある。例えば、就学前児童用の6ページ、問17「0～2歳児の幼児教育無償化が全世帯に拡大された場合には」と、こういう仮定である。そうすると、例えば、福井県が予定している「第2子の保育料を無償化した場合には」とか、これも仮定の話になり、これからのニーズ量にも少し影響してくるかと思予想するところである。

そういう仮定を踏まえて、どういう質問をするかということについては、事務局のほうで考えたいと思っている。

それから、4ページ、問14-5「現在利用されている教育・保育の事業に対してどのように感じているか」ということで、満足度を尋ねる質問になっているが、選択肢の②は「職員等の配置状況（人員体制）」としている。これは利用者の方にとっては、なかなか分からないし、仕組みも分からないかなと思うので、答える側として難しいかなという印象を持った。

もう一つ、1ページ、問6「お子さんの子育てを主に行っているのはどなたか」と、次の2ページ、問8「お子さんの子育てに日常的に関わっている方はどなた（施設）か」というのは、質問の趣旨がちょっと分かりづらく、違和感があるので、一度ご検討いただきたい。

【事務局】

ご指摘をいただいた三つの点、「仮定の話をつまえての質問内容の検討」と、「教育・保育事業の満足度を尋ねる中での選択肢」、また、「問6と問8の質問の趣旨」については、内容を見直していく。分かりやすい質問内容、答えやすい質問内容に修正したいと思う。

【会長】

あれもこれもと質問を増やすと、回答する人の負担も大きくなってしまうから、その辺のバランスも考えなければいけない。

折角、坂井市でたくさん事業を展開されているのにもかかわらず、それが市民の皆さんにきちんと情報が行き届いているのかなという、そういう心配もある。それぞれの施策、事業名の認知度について、過去には聞いたこともあったかなと思うが、今回は入っていないようなので、そのあたりもまた、事務局のほうで、ボリュームに併せてご検討いただきたい。

【会長】

それでは、小学生用の質問紙について、お気づきの点があればお願いしたい。

小学生自身に回答していただく項目は二つあり、直接のニーズ量とは関係しないが、今の小学生の状況を把握するには大変よい質問だなと思い、事務局の説明を聞いていたところである。

【委員】

最後の「家庭でのICT機器の利用状況について」のところだが、この質問だけちょっと異質

であると感じている。これは、現状調査がしたいということなのか。

事業計画策定のニーズ調査ということを考えると、ここだけ目的と合わない部分があると思ったのと、あと、お子さんに回答してもらおうというところでどうなのだろうか。変に低く見積もって回答したりはしないか、そのような回答でもよいと考えているのか。

結局、どういったデータが欲しいのかといったところで、お子さんに回答してもらおう目的というのは何であるのか、教えていただきたい。

【事務局】

今、坂井市の中で何か問題が生じていて、対策をすぐにでも講じなければならないというような状況ではなく、単に子どもさんの現状、状況をお尋ねして、数字を拾えたらいいかなと思って

いる。
お子さんに回答していただくにしても、それを経験することは、なかなかないことだと思うし、国の方針でも、子どもさんからの意見を求めてほしいとされており、調査に携わっていただくということで、質問を設けたものである。

【会長】

こういう質問は、本当は校長会でされるとよいのかなと思ったりもするが。市全体として。

【委員】

学校評価のアンケートでは、子どもたちとか保護者に、このようなパターンで答えていただくことはある。

【会長】

だから、例えば、学童保育を利用されている児童も多いと思うが、今の利用している学童保育についての満足度とか期待感とか、そういうのを吸い上げられると、本当に施策に結びついていくのではないかなと思う。正に、生の児童の声だと思う。

何か、そういうのを一つ工夫できれば。また、一度、考えてみてほしい。

【委員】

小学生用の4ページ、問13・14「お子さんの放課後の過ごし方について」だが、放課後児童クラブに、行きたい所にきちんと行けているかどうかとの項目は入っていないが、あまり必要ないのだろうか。それがあると、今後の市政についての方向性が少し出てくるかなと思うが。

【事務局】

放課後児童クラブは、好きな所に行けるというものではなく、その学校の何年生は、この児童クラブといったように、決まったやり方でやっている。

【委員】

今のところは、希望される方は希望の所に行くことができているという判断でよいのか。

【事務局】

児童クラブを利用したいと希望される方には、その学校と学年で、ここの児童クラブですというような対応をしている。そのままランドセルかついで、学校の横の旧幼稚園舎でやるとか、そういう形のため、場所の希望までは受け付けていない状況である。

【委員】

児童クラブに行かせたいという人が、ほぼ受け入れてもらっているのかどうかという観点で、本当は受けてくれるなら出したい、というような項目での調査は、いるのかいないのか、どうだろうかと思うところである。

【事務局】

保育園と同じで、児童クラブでも会員申し込みを受け付けているが、入会できる条件がある。今のところ待機児童はないため、希望どおり行かせられるのかなと思っている。

ただ、その条件も、施設の規模や指導員の数など色々あり、本当は児童クラブに行きたいが、条件に合致しないから行けないという子はいるのかもしれない。

【会長】

条件の内容についてはよく分からないが、これはニーズ調査なので、条件がどうであれ、親御さんにとしてみると、学童保育に出したいなというような希望は、一応、ニーズ量としては取れるものなので、その上で確保できるかどうかという判断になるのかなと思う。

【委員】

5 ページ、問 15-1 「できれば病児・病後児保育施設等を利用したいと思われましたか」のところで、これは、就学前児童の子どもさんくらいしか行けないのかなというイメージを持っているが、小学生が行ける、利用できる施設なのだろうか。

【事務局】

小学生までは、病児保育・病後児保育を利用できる。無償化にはならないという状態で、手数料は発生してしまうけれども、利用することはできる。

【会長】

正に、そういった情報がきちんと市民に届いているかどうか。ここが大事なところである。

【委員】

先ほど、放課後児童クラブの入会条件に合致した人は、待機児童というのはいないという話があったが、私は毎年これで悩んでいる。祖父母が75歳になっていけば別だが、なっていない場合、仕事にもついていない、住んでいる家からそんなに離れた所にいるわけでもないといったときには、入れないということである。

私個人の話だと、夫はまだ働いているが、私は働いていない。けれども、今、会議に出ているような、こういった仕事では、色々、外出することが多いので、子どもが学校から帰ってきても見てもらえない。児童クラブに預けるために書類を何枚も出して、ようやく入れてもらっている

状況である。

だから、入れてもらえた人はいいが、体が悪いとか、近くにいるけれど、どうしても見てもらえない、個人的な理由もあると思うので、本当に入れたい人がどれくらいいるのか、それぞれの児童クラブでどれくらいは見ていただけるのか、そのようなものが分かるといいなと、いつも思っている。

それと、児童クラブでも色々あって、うちは2人、兄弟でも別々の所に行っているが、楽しかったときと、そうでなかったときがあるようなので、調査の中で、どんな児童クラブだったら楽しいかとか、今行っていてちょっと不満に思うことはないかといった、子ども向けの、子どもの意見を吸い上げるような項目があるといいかなと思う。

【会長】

また、事務局のほうで、ご検討いただきたい。

【委員】

全体的に見て思ったことだが、こういう調査をすると、きちんと回答してくれる方というのはまず、子育て支援に熱心な家庭であって、回答できる環境が整った人の意見として吸い上げられるのだろう。

だから、忙しい方や、色々必要としている方など、本当に回答してほしいなと思うような方からは、なかなか回答してくれないのではないだろうか。

こういったところは、いろんな調査では課題だと思う。今回も、その部分をどう補っていくのか、興味があるところである。

【会長】

今回の調査は量的な調査である。質的な調査とも言われるけれども、これにタウンミーティングとかヒアリングとか、そういうものと、こういう量的な調査を組み合わせられると、いろんな人の声が反映されやすいのかなと思う。

【委員】

利用できることがあるのに知らなくて利用できないとか、周知はされているのに中に入っていないとか色々あると思うので、どういう形で周知していくと、よく知らせられるのか、これからも考えていきたいなと思う。

【委員】

保育園では、見学に来る人が多くなる時期で、今日も朝から見学の対応などをしていたところである。0歳児の子もいて、来年4月ぐらいからの入園を考えているようだ。

上の子と下の子が同じ保育園ならよいが、うちは3歳児からの園なので、上の子と下の子が違う園になる時の大変さがあり、園を選ぶのが難しいなという声もいただいている。お母さんには、いつでも相談に乗りますよと声かけしており、みんなが子育てをカバーしていけるような体制が取れるといいなと思っている。

【会長】

ほかにも、お気づきの点・ご意見はあろうかと思うが、また、事務局のほうに、お寄せいただきたい。

それで、いつ頃までならば、検討・修正は可能なのか。

【事務局】

来年1月の初め頃・中旬頃には調査をしたいと考えているので、年内には、調査票として確定させたいなど思っている。

【会長】

では、今日、原案が出されたので、また、お気づきのところがあれば、なるべく早く、事務局のほうに、ご意見・ご提案を出していただければと思う。よろしくお願いをしたい。

4. その他

今後の日程

【事務局より説明】

5. 副会長あいさつ

【副会長あいさつ】

6. 閉会